

研究計画概要書

研究課題名	孤独感・社会的孤立と認知機能低下との関連性の縦断的検討
研究責任者(所属・職名・氏名)	名古屋大学医学部保健学科理学療法学専攻 教授 杉浦英志
研究分担者(所属・職名・氏名)	名古屋大学医学部保健学科理学療法学専攻 4年 堀優香
研究事務局 (機関の名称・住所・連絡先)	名古屋大学医学部保健学科理学療法学専攻 〒461-8673 名古屋市東区大幸南1丁目1-20 大幸キャンパス別館312研究室
研究実施場所	名古屋大学医学部保健学科大幸キャンパス
研究の意義・目的	名古屋大学と東郷町は地域住民の中高齢者を対象として加齢による身体・認知機能低下に関与する要因の調査を行う目的で共同研究を行っている。今回は、その共同研究の一環であり、地域住民の中高齢者における認知機能低下の関連因子の調査である。日本では超高齢社会の進展に伴い認知症患者が急増しており、今後さらなる増加が推測される。認知症は長期的な介護や治療を必要とするが治癒に導く治療法はなく、認知機能低下の予防は重要である。認知機能低下の危険因子として孤独感や社会的孤立が報告されている。孤独感とは「自分がひとりである」と感じる心理状態を指し、主観的指標となる。一方、社会的孤立とは家族や地域社会との関係が希薄で他者との接触がほとんどない状態を指し、客観的な指標となる。主観的指標である孤独感と客観的指標である社会的孤立の両変数について同時に調査した報告は少ない。また近年、リハビリテーション専門職が地域へ介入する場が増えており、地域参加の重要性が注目されている。孤独感・社会的孤立と認知機能低下との関連を調査することにより、リハビリテーション専門職が認知機能低下を予防するためにどのように介入していくべきか明らかにすることができると考える。したがって、本研究では孤独感・社会的孤立と認知機能低下との関連性を縦断的に調査することを目的とする。
対象疾患及び選定理由	名古屋大学・東郷町の共同研究である健診事業において、本研究への参加の同意を得られたものを対象者とする。
実施計画	名古屋大学と東郷町は地域住民の中高齢者を対象として加齢による身体・認知機能低下に関与する要因の調査を行う目的で共同研究を行っており、本研究はその共同研究で得られたデータを2次利用して調査するものである。孤独感・社会的孤立の評価

	<p>は、共同研究のアンケートの一部を二次利用することによって過去1年間の孤独感・社会的孤立の有無を調査する。被験者を過去1年間に孤独感・社会的孤立がみられた群、みられなかった群に分け、認知機能の変化を評価する。認知機能評価は MoCA-J を用い、1年前の MoCA-J 得点と今年度の MoCA-J 得点を比較して得点の低下がみられた場合を認知機能低下とする。これらの指標から認知機能の変化を算出し、孤独感・社会的孤立と認知機能低下との関連性を縦断的に検討する。</p>
被験者等に対するインフォームド・コンセント	<ol style="list-style-type: none"> 1) インフォームド・コンセントに基づき同意が得られた者のみに研究を行う。 2) 対象者のプライバシーを守秘し、研究結果から得られるいかなる情報も研究目的以外には使用しない。 3) 対象者が研究参加中止を希望した場合には速やかに中止する。 4) 研究結果は参加者本人から要請があった場合のみ本人に直接知らせる。 5) 対象者に未成年者を含むため本ホームページに研究内容を公開し、研究対象者の親権者が拒否できる機会を保証する。
個人情報保護の方法	<p>データを保存した USB メモリは研究室の鍵のかかる戸棚に厳重に保管する。また、データベースへのアクセスはアカウントへのパスワードによるセキュリティー管理のもと本研究実施者のみが可能とし、第三者がデータを閲覧することはできない。さらに被験者名の匿名化を行い、プライバシーの保護に努めの個人情報は厳格に守秘する。</p>
効果安全性評価委員会（委員の職名・氏名・審査間隔）	該当なし
被験者等に対して重大な事態が生じた場合の対処方法	該当なし